石造物調査会会報 1

平成 29 年度

小田原の石造物　城山地区 1



小田原市郷土文化館

はじめに

小田原市郷土文化館では平成29年7月から市民公募によるボランティアとともに石造物調査を開始しました。

これまでに行われた石造物（石仏）に関する調査は文化財報告書『小田原の野佛たち』（小田原市教育委員会）として刊行されていますが、収録されている石造物は約500基であり小田原市内の石造物のほんの一部でした。また刊行から30年の歳月が経ち、移動や破棄されたものも多くあることが予想されていました。小田原市教育委員会の調査以外にも個人による調査で私家版による『小田原の石造物案内』やインターネットで紹介され石造物への関心が高まっていることで、多くの石造物が記録として残されつつあります。

この度の小田原市郷土文化館の調査では小田原市内の石造物を悉皆的に再調査するため調査会を立ち上げました。この調査は、平成28年度に策定された小田原市博物館基本構想に示された「小田原の宝」、すなわち地域に残る文化財である地域資源を掘り起こすための活動のひとつです。しかし郷土文化館職員だけでは市内すべてを把握することは難しい状況でした。一方で博物館の活動を市民とともに行う市民協働の必要性も高まっています。このため、市民の力で地域資源を調べ保存していく活動として、市民公募のボランティアとともに「石造物調査会」を開始しました。

ボランティアの調査員は、石や碑、石垣、道祖神など様々な石造物に興味をもっています。石造物や調査に関しては初心者も多いですが、熱心に調査をしていただいております。その結果7月から12月までに城山地区西側の91基もの石造物を記録することができました。平成30年1月からは早川地区に移り、こちらでも多くの石造物を確認しています。今後も記録されていないものが見つかることでしょう。

この冊子は、市民の皆さんと共に行う石造物調査の途中経過を発表するため、これまで調査を行った城山地区西側の石造物の一覧と参加者からの声を収録しました。石造物研究の一助となるだけでなく、市民の力を示す確固たる証左となることを願って刊行するものです。

最後になりましたが、調査会会員、また調査にご協力いただいたすべての方に、この場を借りてお礼申し上げます。

小田原市郷土文化館
民俗担当　保坂　匠

城山地区西側の石造物一覧

	整理番号	地区	種別	所在	管理	年代		備考	旧村落名	寸法（mm）		
						洋歴	和歴	石材		高さ	横	厚
1	20170715-1	城山	記念碑（道路開築之記）	城山205		1922年	大正11年		谷津村	1970	1010	
2	20170715-2	城山	無縁塔	城山2-24-19	浄永寺	1976年	昭和51年		谷津村	535	200	106
3	20170715-3	城山	記念碑（北条氏康書状）	城山2-24-20	浄永寺	2002年	平成14年		谷津村	730	880	200
4	20170715-4	城山	道祖神	城山205		交通安全のため、入り谷津自治会にて作成、10年ほど前とのこと			谷津村	520	570	370
5	20170715-5	城山	灯籠	城山2-24-20	浄永寺	1996年	平成10年		谷津村	3240	900	900
6	20170715-6	城山	手水鉢	城山2-24-20	浄永寺	1663年	寛文3年		谷津村	590	760	440
7	20170715-7	城山	日蓮名号塔	城山2-24-20	浄永寺	1731年	享保16年	文字風化のため読めず	谷津村	1250		85
8	20170715-8	城山	灯籠	城山2-24-20	浄永寺				谷津村	1500	440	440
9	20170715-9	城山	灯籠	城山2-24-20	浄永寺				谷津村	1500	420	420
10	20170715-10	城山	手水鉢	城山2-24-20	浄永寺				谷津村	552	590	420
11	20170715-11	城山	日蓮名号塔	城山2-24-20	浄永寺	1761年	宝暦11年	安山岩	谷津村	243	105	41

刻文				
表	裏	左	右	その他
足柄村入り谷津は小田原停車場を距る数丁　道路開築発起工費負担者 給料起伏して空氣清涼眺望絶佳好道　濱半平 の居住地なるも交通不便乃為め土地の発　馬場英一郎 道路　展遅々たるを慨し茲に有志者桐謀里新に　賛成土地提供者 開築　道路を開築此長百五十間幅十二尺自動車　中村惣太郎 之記　能運轉を自在なるを得たり後人々に做　辻　直太朗 ふて道路を延長するあらは小田原近郊の　佐久間惣次郎 發展期して待つへく豈獨り入谷津乃便　志村林太郎 益のみならんや若夫れ土地能發展を祖　鈴木銀次郎 害する建築物の為に此道路を利用せら　桃源寺住職 るゝ如きことあれは已むなく道路を閉塞　加藤春芳 する事なきを保せす依て特に之を附記す　浄永寺住職 古宮恵祥		大正十一年壬戌九月竣工 工事監督測量者 鶴村事　齋藤謹兄 工事請負者　杉山寛次郎		
無縁佛霊位供養碑		昭和五十一年十二月 施主清水家		
為出陣祈願巾篭 処全勝利明神威力 今感悦□□□ 六月八日 日源上人　（花押） （横の碑） 北条氏康書状		（横の碑） 平成十四年十二月吉日 光秀山浄永寺 廿八世日慈代		
奉納		為真院日裕信士　追善菩提 施主　川上勝之 平成十年十月十九日		
寛文三年癸卯 手水器 五月十九日日透宮				
四五 南無妙法蓮華経□　高□ 享保第十六				
斯人行世間能滅衆闇 南無妙法蓮華経 南無日蓮大菩薩	受信院妙念日持 先祖代々　先祖代々　先祖代々　先祖代々 （左月に之繞）妙院祖輪日康本樹院栄各松　窓日院妙光日□　□在院宗仏日永 總有院妙□□　先祖代々　心成院妙録日□　動く來院妙仙日法 □□院□貞誠　本来受性　□□院妙相日現　尋□院示妙日儀 □林院妙日□□　本然妙□　□心院妙閑日玄　恵照童子 □□妙□　清金　唯信院妙安日□　先祖代々 □□妙□　函月院清体日意　国定□方　地主之精点 □院妙□日仙　先祖代々　實如院□因日誠　宿善院法授日□ □□院妙□日□　先祖代々　讃□院妙蚌日性　木村氏先祖 □□院妙□日□　先祖代々　玄海院妙□日遊涼山心上 □□院□□□　好善院道忠日有 光秀山妙光院常樂寺　廿二世大道院 法界先祖代々清水石十郎　鈴木忠左衛門 智光院日□　先祖代々　外良養甫　伊東治良兵衛 法界先祖代々　先祖代々　細谷玉良七　早川藤兵衛 蓮真妙宗　法界志之□忌　林　初衛門　金子□兵衛 幼持院道授日成 先祖代々　法界施入百々　香川繁衛門　窓感日真 柊本惣衛門　熊澤□兵衛 小田原領井細田村 發願主　石井	（左） 駿□富士郡川成嶋空日豊蔵 諸悪□作　日村日道□衛門 小田原領池上村中戸川□ □善奉行　左衛門 （右） 御頭目十萬部三百迷御忌取□ 御経二千鋪宝暦十一辛巳十月十三日	
	（裏下に続く）先祖代々有無□縁　松永市良兵衛　小瀬村宅衛門　関野金左衛門　沢地□治良 示教院幽現日理童子　市川治良兵衛　土尾喜代八　大嶋庄三良　□領院妙□ 珠容院智厳日明童子　高橋平八　柳川幸左衛門　同彦三良　□高坊 先祖代々　須藤庄五良　高橋源衛門　同分蔵 相解院妙脱日有信女　中野新介　石井藤衛門　岡田八良左衛門 如實妙知　信女　笹井与助　石川吉兵衛　清水傳左衛門 □誉光安　廣瀬庄衛門　石沢杢左衛門　中野六左衛門 光誉恵照　井上茂衛門　吉沢城房　米屋兵治良 先祖代々　中□喜三良　吉沢定衛門　鈴木氏 輩行院□之日顕　伊沢屋利兵衛　嶌﨑惣左衛門　松本平重良 先祖代々　林治良兵衛　大黒屋千介　門川惣衛門		

	整理番号	地区	種別	所在	管理	年代		備考	旧村落名	寸法（mm）		
						洋歴	和歴	石材		高さ	横	厚
12	20170715-12	城山	寺号塔	城山2-24-20	浄永寺	1996年	平成8年		谷津村	1560	660	320
13	20170812-1	城山	供養塔	城山3-7-43	鳳巣院	1985年	昭和63年		谷津村	487	212	161
14	20170812-2	城山	聖観音	城山3-7-43	鳳巣院	2000年	平成12年		谷津村	巨大なため計測不能		
15	20170812-3	城山	六地蔵	城山3-7-43	鳳巣院	1720年	享保5年		谷津村	（全て同数値） 645	316	280
16	20170812-4	城山	六地蔵	城山2-1-24	本誓寺				谷津村	460	260	125
17	20170812-5	城山	寺号塔	城山2-1-24	本誓寺	1985年	昭和63年		谷津村	1560	2050	
18	20170812-6	城山	三界萬霊塔	城山2-1-25	本誓寺	1981年	昭和56年		谷津村	613	250	157
19	20170812-7	城山	無縁塔	城山2-1-25	本誓寺				谷津村	近づけず計測できず		
20	20170812-8	城山	聖観音菩薩	城山2-1-25	本誓寺				谷津村	2980	750	
21	20170812-9	城山	灯籠	城山2-1-25	本誓寺				谷津村	1090	400	
22	20170812-10	城山	灯籠	城山2-1-25	本誓寺				谷津村	1020	410	210
23	20170812-11	城山	灯籠	城山2-1-25	本誓寺				谷津村	1910	760	760
24	20170812-12	城山	灯籠	城山2-1-25	本誓寺				谷津村	1910	760	760
25	20170812-13	城山	寺号塔	城山2-1-26	本誓寺	1501年	文亀元年		谷津村	500	600	
26	20171010-1	城山	六地蔵	城山3 - 1 - 29北側	願修寺	1875年	明治8年		谷津村	935	490	490
27	20171010-2	城山	三十三観音（楊柳（ようりゅう））	城山3-7-23	永久寺				谷津村			
28	20171010-3	城山	三十三観音（竜頭（りゅうず））	城山3-7-23	永久寺				谷津村			
29	20171010-4	城山	三十三観音（持経）	城山3-7-23	永久寺				谷津村			
30	20171010-5	城山	三十三観音（円光）	城山3-7-23	永久寺				谷津村			
31	20171010-6	城山	三十三観音（遊戯（ゆげ））	城山3-7-23	永久寺				谷津村			
32	20171010-7	城山	三十三観音（白衣(びゃくえ)）	城山3-7-23	永久寺				谷津村			
33	20171010-8	城山	三十三観音（蓮臥(れんが)）	城山3-7-23	永久寺				谷津村			
34	20171010-9	城山	三十三観音（滝見(たきみ)）	城山3-7-23	永久寺				谷津村			
35	20171010-10	城山	三十三観音（施薬(せやく)）	城山3-7-23	永久寺				谷津村			
36	20171010-11	城山	三十三観音（魚籃(ぎょらん)）	城山3-7-23	永久寺				谷津村			
37	20171010-12	城山	三十三観音（徳王）	城山3-7-23	永久寺				谷津村			
38	20171010-13	城山	三十三観音（水月）	城山3-7-23	永久寺				谷津村			
39	20171010-14	城山	三十三観音（一葉）	城山3-7-23	永久寺				谷津村			
40	20171010-15	城山	三十三観音（青頭(しょうず)）	城山3-7-23	永久寺				谷津村			
41	20171010-16	城山	三十三観音（威徳(いとく)）	城山3-7-23	永久寺				谷津村			
42	20171010-17	城山	三十三観音（延命）	城山3-7-23	永久寺				谷津村			
43	20171010-18	城山	三十三観音（衆宝(しゅほう)）	城山3-7-23	永久寺				谷津村			
44	20171010-19	城山	三十三観音（岩戸）	城山3-7-23	永久寺				谷津村			
45	20171010-20	城山	三十三観音（能静(のうじょう)）	城山3-7-23	永久寺				谷津村			
46	20171010-21	城山	三十三観音（阿耨(あのく)）	城山3-7-23	永久寺				谷津村			
47	20171010-22	城山	三十三観音（阿麼提(あまたい)）	城山3-7-23	永久寺				谷津村			
48	20171010-23	城山	三十三観音（葉衣(ようえ)）	城山3-7-23	永久寺				谷津村			
49	20171010-24	城山	三十三観音（瑠璃(るり)）	城山3-7-23	永久寺				谷津村			
50	20171010-25	城山	三十三観音（多羅尊(たらそん)）	城山3-7-23	永久寺				谷津村			
51	20171010-26	城山	三十三観音（蛤蜊(こうり)）	城山3-7-23	永久寺				谷津村			
52	20171010-27	城山	三十三観音（六時）	城山3-7-23	永久寺				谷津村			

刻文				
表	裏	左	右	その他
日蓮宗 光秀山　浄永寺 七面大明神安置			平成八年六月吉日 浄永寺　三十八世 日茲代 施工（有）鈴木石工	
諸佛			昭和六十三年四月二十日	
聖観音菩薩 平成12年3月吉日				
（右から） ①享保五庚子年 （地蔵像） 八月□（拾カ）四日 ②同年 （地蔵像） 同日 ③（地蔵像） 同年同日 ④～⑥（②と同じ）		（基壇） 参道改修 平成9年10月 鳳巣院六世 悦順俊三代		
浄當 土知 宗山 本 誓 寺 大本山光明寺 百十世藤吉茲海	代弥光譽観地廿第山当 材石春石工施日祥吉月九年三十 六和昭			
三界萬靈塔	維時昭和五十六年八月六日建之 当山廿七世 羽生誉代 相家一同			
無縁塔				
	平成五年十二月吉日 □（薦カ）廿八世 空蓮社観譽上人 成田光弥和尚荘厳浄土 廿九世彙譽代建立			
□（門構え単カ）譽上人前　念阿建立				
（梵字キリークカ）	為太□院□栄誉妙□大姉			
奉納	昭和五十八年七月吉日 （有）石春石材 市川勝利建立			
奉納	石春石材 石川勝利			
重願院	文龜元			
①明治八亥年中 字槻坂一畑五 ②段五廿一歩□ 賞求候事 ③賞請人 定貞女				

	整理番号	地区	種別	所在	管理	年代		備考	旧村落名	寸法（mm）		
						洋歴	和歴	石材		高さ	横	厚
55	20171010-30	城山	三十三観音（合掌）	城山3-7-23	永久寺				谷津村			
56	20171010-31	城山	三十三観音（一如(いちにょ)）	城山3-7-23	永久寺				谷津村			
57	20171010-32	城山	三十三観音（不二）	城山3-7-23	永久寺				谷津村			
58	20171010-33	城山	三十三観音（持蓮(じれん)）	城山3-7-23	永久寺				谷津村			
59	20171010-34	城山	三十三観音（灑水(しゃすい)）	城山3-7-23	永久寺				谷津村			
60	20171010-35	城山	手水鉢	城山3-7-23	永久寺	1871年	明治4年		谷津村	580	1740	1160
61	20171010-36	城山	北条五代供養塔	城山3-7-23	永久寺	1824年	文政7年		谷津村	1490	530	250
62	20171010-37	城山	日蓮名号塔	城山3-7-23	永久寺	1676年	延宝4年		谷津村	1120	710	230
63	20171010-38	城山	三界萬霊塔	城山2-26	養林寺				谷津村	1130	470	100
64	20171010-39	城山	狛狐（一対）	城山2-26	養林寺				谷津村	920		360
65	20171010-40	城山	六地蔵	城山2-26	養林寺				谷津村	600	200	140
66	20171010-41	城山	子育て地蔵	城山2-26	養林寺				谷津村	750	240	140
67	20171010-42	城山	無縁塔	城山2-26	養林寺	2002年	平成14年		谷津村	645	245	245
68	20171010-43	城山	五輪塔残欠（多数）	城山3-7-23	永久寺				谷津村			
69	20171010-44	城山	灯籠残欠	城山3-7-23	永久寺				谷津村			
70	20171111-1	城山	寺号塔	城山2-2-1	養託寺				谷津村			
71	20171111-2	城山	供養塔	城山2-2-1	養託寺				谷津村	600	440	40
72	20171111-3	城山	無縁塔	城山2-2-1	養託寺				谷津村	480	700	140
73	20171111-4	城山	五輪塔	城山2-2-1	養託寺				谷津村	820	360	360
74	20171111-5	城山	ペットの墓	城山2-2-1	養託寺	1994年	平成6年		谷津村	770	515	
75	20171111-6	城山	日蓮名号塔	城山22-18	法授寺				谷津村	1040	430	240
76	20171111-7	城山	日蓮名号塔	城山22-18	法授寺	1937年	昭和12年		谷津村	3155	1440	1440
77	20171111-8	城山	如意観音カ	城山22-18	法授寺				谷津村	460	310	200
78	20171111-9	城山	如意観音カ	城山22-18	法授寺				谷津村	400	280	240
79	20171111-10		手水鉢	城山22-18	法授寺				谷津村	330	880	620
80	20171111-11	城山	日蓮名号塔	城山22-18	法授寺	1651年	慶安4年		谷津村	550	320	50
81	20171111-12	城山	開堂記念之碑	城山22-18	法授寺				谷津村	1500	275	275

刻文				
表	裏	左	右	その他
世話人 金井　左富 新藤　錬次郎 川野　雅蔵 萬町（田の下に丁） 曽我　偉兵エ 竹花丁 関村　治兵エ 山角丁 石工　嘉兵エ 奉 納	明治辛羊年 五月 永久綾雲代			
三界萬靈塔	于時文政七甲申年二月吉日 北条五代伸供養者也 須藤町 願主石川氏 宙山謹書			
延寶四丙辰暦 南無妙法蓮華経　帰空□□院顕理霊 三月十四日				
一窓妙空禅定尼 正庵道法禅定門 三界萬靈等 露安妙秋禅定尼 道雲禅定門				
伏見稲荷				
養林寺有縁無縁塔	平成14年6月吉日建之			
金子				
供養塔 □（禾偏に睪）浄縁不退位				
當山墓				
南無阿弥汰仏 ペットの墓	平成6年10月建立			
南無妙法蓮華経　当山廿世 日證 日蓮大菩薩				
正中山　法 南無妙法蓮　日綱　授 百廿五世　寺	一天四海皆帰妙法 真命院日孝 五百歳廣宣流布		（右）熱海市山田三吉氏は未信の人なり加藤浦子日夜往来して入信を奨めること数年昭和十二年二月材木仕入の為の天城山中に入り剽盗の為め全国を却略せらるる時抵抗せる勿れとの聲を耳にするを一撃を加え斃れたるを知るのみ起き□の声に眼を覚まし日蓮大上人の尊容拝す傍に浦子先生あり手を引かれ山を下り炭焼小屋に里人人夫に扶けられ入院治療を受ける総て人事不省中感覚なり世に至り始めて日蓮大聖人の大茲悲と浦子先生の御導きにより危き （左）生命を救はれたるを確心し全治後改めて本化の正信に歸し浦子先生に報恩の徴志を献したるに辞して受けられす乃ち先生の名を用て此塔を建て永く再生の恩徳を記念せんとす普く願くは本化未信の貫賤男女此功徳によりて速やかに別頭の正信に帰入し二世安楽の大果報を得られんこと祈ると云□ 維岩 昭和十二年丁丑月初五日 建立主加藤浦子	（台座） 善根主 熱海和田浜 山田三吉 妻　□□ 檀家総代 石川忠蔵 高橋善吉 〃　確五郎 坪井善二 柳田紋吉 鈴木清太郎 石工 真鶴 青山文二
奉				
慶安四年 南無妙法蓮華経□位 十月二十日				
延命山 開堂記念之碑 法受寺 第三十四世伝灯恵孝日静代	東望聖誕之海 西拝棲神之山	（左）総代　高橋辰造　世話人　渡也浅雄　世話人　滝本為之助 同　大熊菊太郎　同　府川輝久　同　府川壽久 同　渡也郷作　同　小林茂次　同　安村修一 同　井上正雄　同　平井好太郎　住職母　岩田あき 同　坪井博　同　里見裕康　原石寄付　露木藤雄	（右） 設計　鋼建設事務所代表　小林久 施工　瀬戸建設株式会社　社長　瀬戸政次	

	整理番号	地区	種別	所在	管理	年代		備考	旧村落名	寸法（mm）		
						洋歴	和歴	石材		高さ	横	厚
82	20171111-13	城山	日蓮上人像カ	城山22-18	法授寺				谷津村	670	410	400
83	20171111-14	城山	六百遠忌報恩塔	城山22-18	法授寺	1923年	大正12年	基壇に文字あり。風化して読めず。	谷津村	3030	180	
84	20171128-1	城山	記念碑（耕地整理記念碑）	城山2-18		1931年	昭和6年		谷津村	1630	790	260
85	20171128-2	城山	宝篋印塔	城山1-8-20　谷津公民館	自治会				谷津村	550	245	245
86	20171128-3	城山	五輪塔の一部	城山1-8-20　谷津公民館	自治会				谷津村	（空輪）90 （風輪）100 （火輪）110 （火輪）155	210	210
87	20171128-3	城山	五輪塔の一部	城山1-8-20	谷津公民館				谷津村	430	210	210
88	20171128-4	城山	道祖神	城山1-8-20　谷津公民館	自治会				谷津村	400	310	140
89	20171128-5	城山	五輪塔	城山1-8-20　谷津公民館	自治会				谷津村	（火輪）118 （水輪）138 （水輪）200 （地輪）224	180 200 212 250	192 200 220 250
90	20171128-6	城山	五輪塔	城山1-8-20　谷津公民館	自治会				谷津村	（空輪）90 （風輪）90	170	170
91	20171128-7	城山	五輪塔	城山1-8-20　谷津公民館	自治会				谷津村	（空輪）110 （風輪）90	185	185

刻文			
表	裏	左	右
	大正十四年四月 尊像寄進石工坂本清太□ 三十三世月孝代		
南無日蓮大菩薩	施入面々現安後善 明治十四年　延命山廿八世 十月十三日　寂具山院日真代 大正十二年 震災倒壊 三十三□□□修	斯人行世間 能滅集生闇 （基壇2段目） 五円 三円 □円 金一円 コンノカ利ヘイ タカハシ庄ヘイ アタ□カイトウ モリヤ金ゾウ 十ジ ダイ目コウ中 金一円　フカハ氏 □五円　山田　氏 金一円　仝　妻 金五円ツ田村氏 ツボイモ左エ門 語ツボ井 ナシ ツボ井セ右門 金三円ツ里見氏 玉ヤテンゾウ 金一円ツ八木久右エ門 人　土ヤアサ四郎 オギ ツボ井ソノ 金三円 為観量院　イワセ氏 サトミ氏 金三十センツー寸木ゼン助 コミ平井山蔵 □十	六百遠忌報恩塔
大正十三年九月一日の大震災に遇ひ 凡ての農業将来滅亡せむ登す□や柑 橘乃栽培は多年の苦心に因り海外輸 出の主な百物産なりしが災害の為め 殆ど枯死せむとす一日と緩小となか らに斯に□て耕地整理の議なり大正 十三年二月十七日組合を設け懇の補 助を仰き亦資材を投し□勉戮カ昭和 六年五月に至り復旧事業完成す其成 績は荊棘を荊伐むて細径を壊兎車馬 の交通□便にす其延長八百九十二間 荒蕪を芟鋤して耕地を復興す其面積 十一町一畝十七歩収穫旧に倍加す是 皆組合諸子努力の結果な里故に其□ 蹟を石に刻みて永遠に伝えて云尓 耕地整理記念碑 足柄谷津耕地整理組合 組合長　岡田　清太郎 副組合長　志村　林太郎 評議員　山田　松太郎 佐久間　□太郎 柏木　松太郎 佐久間　辨吉 組合員　片岡　親一 慈眼寺 遠藤　平吉 府川　亀三郎 浜　半平 田中　仙蔵 □田　清之助 辻　直太朗 渡辺　慶次郎 養林寺 加藤　另	（裏） 昭和六年六月建立 石工　佐野延吉	

城山地区西側の特徴

城山地区西側にて確認した石造物は、91 基である。その内 81 基は寺院境内にあり、この地区が六地蔵などの仏教関係の石造物が多いことが特徴であることがわかる。今回の調査では 8 ヶ寺の境内を調査させていただいた。戦国期に開かれた寺院も多いが、戦国期の年号が彫られた石造物は 1 件にとどまる。また新幹線開通により、新たにこの地に移築された寺院もある。しかし、移築された場合も古くからある石造物を移築しており、この地域の石造物は江戸時代の石造物が比較的多く残されていると思われる。また、新しい石造物として、寺院内、特に墓地には無縁塔やペットの墓が見られ、近年も建立され続けていることがわかる。

路傍にある石造物は 10 基のみであり、道祖神 2 基と道路開築之記、耕地整理の碑、五輪塔・宝篋印塔群であった。

参考写真

調査した石造物の内、15 点を写真でご紹介します。



20170715-1　記念碑（道路開築之記）
（撮影：2017 年 7 月 15 日）



20170715-4　道祖神
（撮影：2017 年 7 月 15 日）



20170715-7　日蓮名号塔
（撮影：2017 年 7 月 15 日）



20170812-3　六地蔵
（撮影：2017 年 8 月 12 日）



20170812-8　聖観音菩薩
（撮影：2017 年 8 月 12 日）



20170812-13　寺号塔
（撮影：2017 年 8 月 12 日）



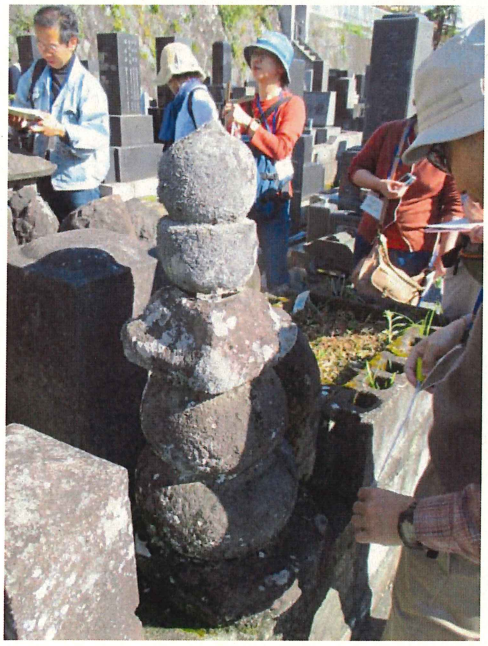
20170812-6　三界萬霊塔
（撮影：2017 年 8 月 12 日）



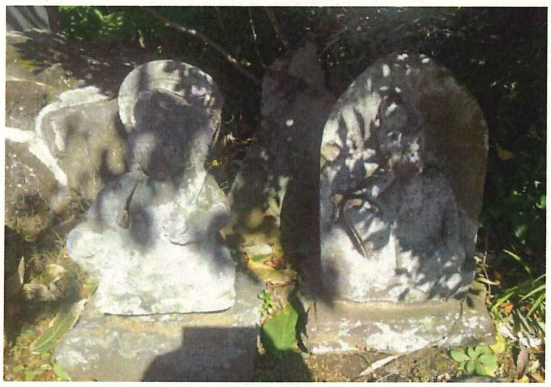
20171010-1　六地蔵
（撮影：2017 年 10 月 10 日）



20171010-38　三界萬霊塔
（撮影：2017 年 10 月 10 日）



20171111-4　五輪塔
（撮影：2017 年 11 月 11 日）



20171111-8、9　如意観音カ
（撮影：2017 年 11 月 11 日）



20171111-5　ペットの墓
（撮影：2017 年 11 月 11 日）



20171111-14　六百遠忌報恩塔
（撮影：2017 年 11 月 11 日）



20171128-1　記念碑（耕地整理記念碑）
（撮影：2017 年 11 月 28 日）



20171128-2～5　道祖神等
（撮影：2017 年 11 月 28 日）

会員の声

石造物調査会は、市民公募によるボランティアとともに行っています。
調査会会員からご寄稿いただき、調査会に参加した理由や調査で調べた石造物をさらに調べてみた、調査していないが気になっている石造物についてなど様々な「声」を集めました。

「石好きなので」

石井智子

子供の頃から遺跡とか石器などにあこがれがありました。お地蔵さんに手を合わせ（傘地蔵の話も好き）、石垣に萌え、お墓参りのときはご近所の墓石に掘られた家紋を見るのが習慣になっています。川や海へ行けば石を拾い、そういえばクライミングもしたなぁ。だからと言って、石の種類や歴史に詳しいかと言えば、全く苦手です。ただ、好き。質感や、時代を超えて存在しているところにわくわくし、人の手が加わり役割を持った石達の存在に魅力を感じます。ざらざらの手触りも、磨いてつるつるになった表面も、なでなですると心が癒されます（暑い夏は特にひんやり気持ちいい～）

たまたま立ち寄ったケヤキで目に飛び込んできた「石造物」の文字。「調査」なんて難しそうだけど素人さん歓迎（のようなこと）と書いてある。うちの周りにも道祖神が多くあり、近所の山や畑の奥に入ると気になる「石」たちがところどころ存在しているのも気になっていたところ。説明会も数日後とあるし、これは運命の出会いか？そうだ、興味ありそうな友人にも知らせようとすぐに連絡し、申し込みま

「石造物調査会」に入会して

今里

入会してまだ二月余り、実際の調査活動に参加したのは二回という新参者です。石造物の調査は全く初めてで、ただ今「会の活動全てが新鮮な体験の時期」を過ごしております。

初めて参加した調査で、石に刻まれた判読できない文字に片栗粉を塗ると、白い文字がくっきりと浮かび上がるのを見た瞬間、思わず「おおっ」と叫んでしまいました。浮き上がった文字を囲んで、読み方を考え合うのもとても刺激的でした。皆さんが、地理、歴史、風習等の幅広い知識を出し合いながら読み方を決めていかれる過程は大変勉強になりました。

入会して特に嬉しかったのは、想像していたより女性会員の方が多いということです。これまで「石（垣）に興味がありまして」と言うと、「へー、女の人がね、珍しい」と言われ続けていたものですから。皆さんと心置きなく石の話や情報交換ができるこの会との出会いを大切にしながら、ゆったりと学んでいきたいと思っています。どうぞよろしく。

私の場合は

山口雄司

小さい時分から道の端に大人から教えられているところの「お地蔵さん」ではない、何か違う形の石を彫ったものが遊びに行く先々にあるのは、いつも気になっていました。この石のものが子供ながらの想像にも限度があり、昔といってもまたその昔からここにずっとあったのだろうなと思いを巡らすのがせいぜいなところでした。このものがここに座してから、かなりの時が移ってきたのであろうけど、その石のもの一角だけは、ずっと手が入らずに、人たちからもそっとされてきたんだなというのも容易に伺えるし、そうされてきたのは何か特別な理由があるのでは、とも子供ながらに思っていたのを覚えています。

祖母あてに市からの敬老の日にお祝いの品が頂けるとの事。足代わりに遣わされ向かった地元の尊徳記念館で準備を待つ間、

好きな広報の冊子を漁っていたら、面白いものがありました。「石仏・石神からわかること」なる講座が催されるとか…。自分が生まれ育ったこの土地の「昔の人たち」が何を思ってこれらを作ってきたのかが、少しずつではあるがわかってきたのが楽しくも…。



「石（仏）にひかれるのは」

長田康子

家の門戸を西へ50m程行くとオーカンに出る。その角にサイノカミは立っている。オーカンに沿って川が流れている。川には階段がついていて、野菜洗いや洗濯物の濯をした。子どもは魚とりや水浴びをして遊んだ。鰻もとれた。オーカンは大きな川かと思っていたが、往還であった。1月14日はどんど焼で、サイノカミには藁で小屋が作られた。大根や人参等のだんごをやいて甘醤油をつけて食べる。塞神道祖神はずっとそこにある。それが私の石造物であった。

ところが、他には何とたくさんあることか。地蔵・馬頭観音・千手観音・如意輪観音・不動・庚申塔・五百羅漢・閻魔・宝篋印塔・名号碑・富士講・忠魂碑・顕彰碑・水神・地神等、さらに灯篭・狛犬・狐・道標・手水鉢。橋や玉垣を除いたとしても、形式の違いなど多様である。石材も大切だとのこと。

こんなにもあるんだ、すごい。なにがこんなに石に托されるのだろう。石器時代の石なら理解できるが。会の皆さんと調べられるのは楽しい。が遠出が難しくなった時、一番近くにある石造物は墓石だ。なぜ石なのだろう。

「久野中宿の道祖神祭り見学会　平成30年1月13日」

木村幸枝

小田原駅西口より兎河原循環バスに揺られ現地に向かう。久野水神公園で5，6人の方々と合流、保坂さんより29年「東町の道祖神祭りを訪ねて」の資料の解説を受ける。公園にどんど焼きの燠は出来ていたが団子を焼く人はまだ居なかった、帰り寄って気が付いたが水神が祀られていた。　**水神を祀り受け継ぐどんど焼き**　中宿公民館に向かって行く途中の辻に「狩野街道」という石柱と道祖神があり、青竹に提灯が吊るされた屋根らしきものがあった、これから観る山車に期待が湧いた。少し行くと道路際の丸顔で現代的なお顔の双体仏に出逢う。　**童顔の双体佛や笹子鳴く**　ほどなく中宿公民館に着く、公民館前には大きな山車が曳き出され青竹に薄紙の桃色の花で飾られている、世話役の大人と子供達皆さん「道祖神祭」の法被を着ている。冬の青空に見上げる山車は美しかった。　**蒼空に昇るごとくにどんど山車**　すぐ近くに双体道祖神、人形(ひとがた)道祖神、石碑など集めた所があり、長老の方が提灯を孫の名で奉納した話などしてくださった。公民館の裏でどんど焼きが行われていた。　**里人の団子差し出すどんど焼き**　北条幻庵の廟があり一帯は屋敷跡とのこと。　**北条幻庵の屋敷跡なり大どんど**　水神公園に戻り水神様を確かめて解散となる。　思いがけず愉しい半日であった。

「温 *新* 知 *故*」だった養託寺

イシイタケシ

小学校５年の夏休みを前にして１冊の本を買ってもらいました。『小学生のための万博ガイド』、大阪万博が開催される年でした。本を読むと、磁石のＳ極とＮ極の反発で浮き上がり時速５００kmを超えるスピードで走るリニアモーターカーや（ダイヤル黒電話の時代に）ボタンを押せばコードレスなのでどこでも電話ができるイラストに心をときめきました。本の中の２１世紀はバラ色に輝いて見えました。
それから５０年、僕らは２１世紀を生きています。リニアは予想通りのスピードで東京大坂間を走り始めそうですし、携帯電話どころかスマートフォンを１人１台持ち歩いています。

しかし、どうもバラ色ではないのです。凶悪な犯罪やテロ、格差や諍い、そして自死する人の数のなんと多いことか…。

さて、そんな２０１７年小田原市で新たに石造物調査会が立ち上がり、僕も末席に加えさせてもらいました。

この秋調査をしたのが城山地区なので、石造物の多くは小田原北条から江戸期への大きな変革と、関東大震災による町の崩壊、そして新幹線の開通での寺院の転居による関係石碑が多かったのは納得できます。しかし中には文亀元年の石碑があり、ひと時はるかかなたの時代へ空想の旅をすることも出来ました。
その中で僕個人一番思い出に残っているのは、養託寺墓地にあった「ペットのお墓」でした。こんなの調査対象外だろう、と斜に構えていた僕に保坂氏は「時代が変わればこれも大きな歴史の遺産」と調査を勧めました。古いものが大切とばかり、事の本質を見失っていたと猛省。

考えてみれば、石造物を作った先人たちも後世に何かを伝えたいゆえに必死に石に刻んだわけです。その思いはペットと一緒にいたことを残したいという現代人も同じなのでしょう。

５０年前に未来を夢みていた僕は５０年経った時に、その夢通りではなかった現実を知りました。困窮事は人々の英知で解決し、だれもが幸せに生きているという夢は幻だったことを知りました。

ペットを飼うのはある意味縄文の時代から始まっています。が、庭先に飼われているはずの犬が大型犬でさえも室内で飼う時代になったり、洋服を着せるようになったり、犬猫だけではなく様々な動物と暮らす時代になりました。併せてペットロスなる言葉も普通に使われるようになり、いつしか「家族の一員」にその地位は確立しつつあるのだと思います。

数百年後の人がこの小田原において石造物調査をし、このペットのお墓を見て「みなさん、このペットのお墓は私の知る限り小田原で最古に近い時代のペットのお墓です。

数百年後の人がこの小田原において石造物調査をし、このペットのお墓を見て「みなさん、このペットのお墓は私の知る限り小田原で最古に近い時代のペットのお墓です。西暦で２０１０年ごろ、世の中は文化ばかり先走り人の心の豊かさが置き去られる時代がありました。そうした時代にペット動物がどれだけ心を癒してくれたとこの石造物が伝えてくれているんですよね」「今では考えられないわねぇ」（・・・まぁそんな会話の時代になればいいですが…。）

サリン事件、相次ぐ大地震や火山の噴火、だれを何を信じていいか？と不安視する時代に癒しを与えてくれたペットのお墓は平成を代表する石造物なのかもしれません。

僕らが古き石造物を見て時代に思いを馳せるのと同じように、未来の人も過去に思いを馳せるためには目にできる石造物と言う歴史モニュメントをしっかりと在りかをチェックして置くことは大事だと思います。

温故知新と言いますが、この度は新しい石造物を調査して古（いにしえ）の人に思いを寄せられました。そして、専門知識がなくても石造物調査は十分楽しめることをも体験しました。

「旧東海道の石造物名前」

泉田八重子

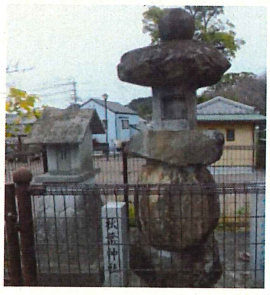
私は数年前に旧東海道を日本橋から京都三条大橋まで歩く機会に恵まれました。

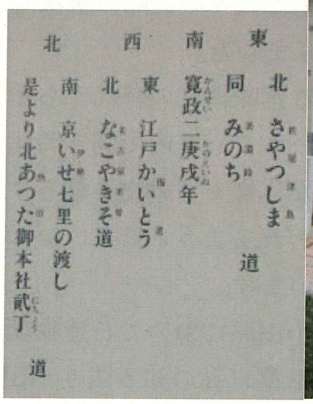
いつも何気なく見ていた地域ものとは違い綺麗に化粧を施され、花の絶えることのなく地域に愛されているお地蔵さん。

古の旅人達のための道標、秋葉さんが近くになるにつれ増えていく常夜灯。

恥ずかしながら私は、どんどん焼きの地元の道祖神しか知らず、道端にあったとしても見過ごしてしまっていた。東海道を歩いてからは石造物を見る目が大分違ってきた。何だか分からなかったこの石は庚申塔だとか、こんなところに道票があるとか興味がわいているこの頃です。

この活動を通して住んでいる地域にどのような風習があったのか、より良く生活するために何をし、やりとげたのかを石碑を通して知りたい。







左：秋葉さん参拝のための常夜灯
右：熱田伝馬町の江戸時代の道標
撮影者：泉田

「道祖神の石仏調査」

尾崎　孝明

良く見かける石造物の一つである道祖神は、意外にも全国的な規模で観ると東日本に多く分布しており、特に長野、群馬、神奈川などの中部、関東に集中しているとのことです。

設置した目的は、悪疫退散から交通安全など諸説あるようで、特に興味がある説を２つ紹介すると、ひとつはある特定地域で、その昔、男女双子は心中した生まれ変わりと言われて、間引きの対象とされた時期がありその供養の為に、双体道祖神を建てたとの事です。また、他の説としては、縄文文化の名残りとして土偶が変化して、現在の形になっているとも言われています。どちらも東日本の特徴であり、西日本方面へ出かけた時に気にかけて比較するのも興味深いものです。画像の道祖神は、市内の城山地区にあったものですが、土台はコンクリートで自然石を掘りぬいた中に男女の神が仲良く手を繋いでいる新しい物でした。ご近所の方の話では、交通安全の目的で他から移設されたようだとの事でした。特に献花等はありませんが、周辺は清掃が行き届いており、地域の方々が大切に維持管理をされている事が見られました。

石造物調査は、地味な作業ですが、文化財調査としては大変面白く、かつ結構歩くので健康維持のためにもなります。調査は、様々な角度から観察します。まずは、石そのものの材質です。県西地区は、富士噴火の溶岩地帯であり、真鶴、根府川、丹沢などの石を活用していたようです。次にその形状です。道祖神だけでも、この双体道祖神以外に単体の道祖神、自然石、棒状など様々です。次に、その設置位置と建造年です。設置位置は、村と村の境界や街道沿いなどが多いようですが、災害や区画整理等で元の位置からずれている物もあるようです。建造年は、石に刻まれた年号から、江戸時代が多いようですが、古いものは1500年（長野）の物もあるようです。最後に、お祭りです。道祖神祭りは、「どんど焼き」が代表的ですが、地域によっては、道祖神を竹の骨組みで囲い花を飾ったり、山車を引いたりしているところもあるようです。

この様に、道祖神ひとつだけでも色々な事柄について得るものがあり、その地域の歴史の一辺を知る事ができます。興味のある方は、是非とも私どもの石造物調査のボランティア活動に参加されてみてはいかがでしょうか。



双体道祖神　城山地区（入谷津自治会管理）
撮影年月日：2017/10/10 撮影：尾崎

「野仏さまや石造物のお導きを体感して」

松本　康

こんなところにいらしたのか、私はいつも野仏さまにお会いする。

それは散歩の途中であったり、旅先や出張先の見知らぬ土地であったりする。

私が見つけるのではなく、野仏さまがいつも視界に飛び込んでこられるのだ。

そして、素直に手を合わせる。「今日も一日幸福でありますように」、「いつもお守りいただき、ありがとうございます」などなど。

このような思いは多くの皆さんが経験されているのではないだろうか。

さて、そんな私が小田原市の石造物調査会へ入会し、地域の野仏さまをはじめとした石造物を調査させていただくのは、決して偶然でなく多くの野仏さまや石造物のお導きと思っている。

入会前の私の野仏さまや石造物への思いと定義は、「とにかく古いものほど貴重で歴史的価値がある」であった。

しかしながら、比較的新しい石造物には、建立者の熱い信仰への思い、歴史的背景が詳しく記してあり建立の経緯が容易に読み取れることが多い。

古いものの貴重さは、それはそれで、大切にすべきであるが、残念ながら風化してしまい建立の経緯が不明な点が多い。

そのような意味では、新しい石造物にもドラマがあり、興味を掻き立てられる存在であることが解り、この活動の面白さが実感できたのである。

こちらの日蓮名号塔は市内城山地区の法授寺に明治年代に建立された。刻まれた文字を判読すると建立者が伊豆山中での事故災難を日蓮上人にお救い頂いた感謝も込めて建立されたものらしい。

このような時代背景や信仰心を読取れるのは、宗派を問わず先人の願いや思い、歴史が伝わりとても興味深いものだ。このような体験を多くの方に是非とも体験していただきたいし、観光資源にもなり得るよう切に願う今日この頃である。



平成 29 年 11 月 11 日撮影、法授寺、日蓮名号塔

「石造物に刻まれた思い　」

隅田

■浄永寺の供養塔

浄永寺の入口に建立されている法華宗（日蓮宗）の供養塔を調査しました。石碑には、多くの名前が刻まれており、当時の人々の信仰の深さや思いが伝わってきます。



今、先人達が築いてきた文化、伝統が継承されず、忘れ去られ、消えようとしています。現代に生きている者の責任として何とか継承させたいものです。

新編相模國風土記稿によると浄永寺は「・・累代當寺にて紀州家御祈願を奉り」と記述されています。紀州家とは紀州徳川家のようで、寺院の歴史の奥深を感じます。

■気になる石造物

地域に設置されている記念碑などの石造物です。先人達の思いが込められています。今は、誰も見向きもされない石造物もありますが、石造物達は小田原の変遷をどの様な思いで見てきたのでしょうか。

○大正２年７月に西大井で酒匂川の堤防が決壊。豊川村村長河野治平さんとは？



○小田原は湘南だった！湘南の記述がある国府津の耕地整理の記念碑



○千代にある関東大震災の復興祈念碑。村内の被災状況や米国在住者からの寄付の記述も	○奇特な経済人、星崎記念館の星崎定五郎さん寄贈の狛犬
	

「祖母との思い出」

石井　悦子

連れ合いの誘いで、この石造物調査会に参加した。自転車を走らせていると思わぬ場所に道祖神があり、以前から気になっていたからだ。

参加回数を重ねるたびに目からうろこが落ちる。この小田原と言う地域の道祖神は、他の地域に比べて多種多様な道祖神があり、どんど焼きに山車を牽くと言う幼いころから見慣れた光景が実は珍しくて他の地域では行われていないなど、また小田原にはなぜお寺が多いのか気になっていたが、その理由もわかった。

調査だけでなく親交も深めようと昨年忘年会が行われ参加した。ふと話した祖母との思い出話から、小田原にも口寄せをする人がいたことを思い出した。祖母は信心深く「今日○○さんが夢枕に立った」と言って、「気になるので摩利支天さんに行ってくる」と出かけることがあった。おばぁちゃん子のわたしは一緒に行き傍で様子を見ることがたびたびあった。思い出してみると不思議な光景で、祖母の夢に出てきた人を呼び出してもらい、５０代（？）の女性の口からその人が話す。祖母は、なぜ夢に出てきたのか？　何かしてほしい事はないか？　質問するときちんと答えてくれる。その後で、その人のお墓があるお寺に行き、お墓とそして寺の入り口にある板碑に団子とおにぎりを埋め、塩で清めたと記憶している。その行為が口寄せの人に言われたからなのか、話を聞いた祖母の考えだったのかはわからない。数回することもあり、終えると夢でその人が笑顔でお礼を言ってくれたと話していた。

また、若いころに近くの山で見た火柱の話を何度か聞き、世の中には不思議なことがあり、目に見えないものを信じるきっかけになったと思う。昨秋実家の近くに転居したので、こんどそれらの場所を尋ねてみようと思っている。

石造物調査会は、路傍の石造物を調査するグループだが、広義で見れば伝承文化を記録するものでもある。歴史ある小田原に息づいている文化を記録していきたい。

「入谷津の「道路開築之記」と、道路の歴史」

府川　修次

入谷津（小田原市城山２丁目）の道路脇に建つ石碑（図１）は、大正１１年９月竣功の道路開築を記したものである。碑文には「長百五十間」とあり、延長はおよそ２７３メートルである。この道路が実際には、どこからどこまでを指すのか。「小田原の金石文（三)」では「入谷津の中央を通じる約三百メートル」、また『小田原市史別編　年表』では「入谷津－小田原停車場間」としている。

まちまちなので、地元の人に確認するため、石碑に「賛成土地提供者」として名前が刻まれている人の子孫の家を訪ねた。その結果、石碑の横から北へ向かい、曲がりくねりながら、北側の高台に到る道であることが判明した（図２、都市計画基本図「荻窪」に彩色)。地図上で計測すると、延長は碑文に記された長さに一致した。

碑は「道路開築」であり、碑文にも「有志者相謀り新に道路を開築す」とある。しかしそこには、はるか以前から道が存在していた。小田原城を描いた城絵図が多数現存していて、１７世紀前半の「加藤図」や後半の「松原図」等にすでにそれらしい道が描かれている。１７世紀末の「静嘉堂元禄図」では、現況に酷似したルートで入谷津から高台へ道が通じている（図３、『小田原市史　別編　城郭』)。さらに下った「文久図」（１９世紀後半）にも、当然ながら、同じ道筋が描かれている。

明治前期、近代的測量の嚆矢となった、２万分１フランス式彩色地図が作成された。その１枚「神奈川県相模国足柄下郡小田原駅」は明治１６年測量である（図４)。この道は点線になっているが、図式によると「徒歩ニ非レハ通シ難キ小径」である。具体的な道幅を示してはいないが、徒歩でしか通れない細い道だったことがわかる。

したがって、「道路開築之記」に記された道は、碑文にあるような新規の道ではなく、江戸時代初期には存在していた小道を、拡幅したものである。

子孫の家での聞き取りの際、興味深い話をうかがった。当時、この道路を登りきった高台（谷津の山ノ神台）に、温泉旅館のようなものを建設する計画があったという。その計画を前提にすると、碑文のいくつかの不自然な表現に納得がいく。実は、この道を「農道」だと思い込んでいたが、碑文には「農」とか「耕」という字は一切使われていないが、それも観光を目的とした道路なら、当然である。また「幅十二尺自動車の運転も自在なるを得たり」とある。幅３．６メートルは農道にしては広過ぎるし、当時の農家で車の所有が皆無に等しいことも、高台の施設へ客が自ら車で赴くことや、駅から自動車での送迎を想定あるいは宣伝しての表現なら、納得がいく。さらに、碑文の下に関係者１０人の名前が刻まれているが、「賛成土地提供者」８人の前に、「道路開築発起工費負担者」２人が配置されている。土地の所有者でない人が、建設費を全額負担しているのである。これも、高台の施設への誘客には、どうしても広い道路が必要で、そのための負担と考えれば、合点がいく。

高台の施設計画に関しては、確かな資料は現状見つかっていない。ただ、上述のように、その計画を念頭に置くと、碑文の腑に落ちない表現が、すっきりと解釈できるのも、確かである。

竣功からちょうど１年後に関東大震災が発生して、この道路も崩れてしまったという。昭和に入って復旧され、現在は近隣の住民にとって、必要不可欠な生活道路となっている。



図１　石碑(赤丸)。その横、奥に続く該当の道路

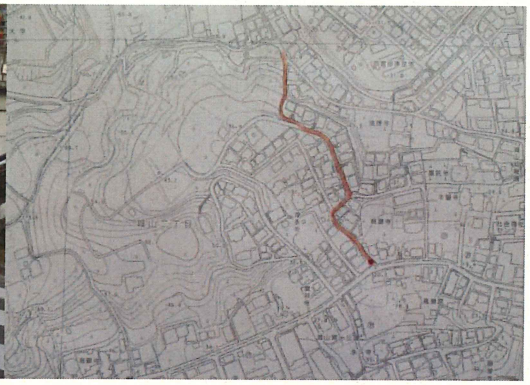


図２　現代の地図。該当の道路に彩色

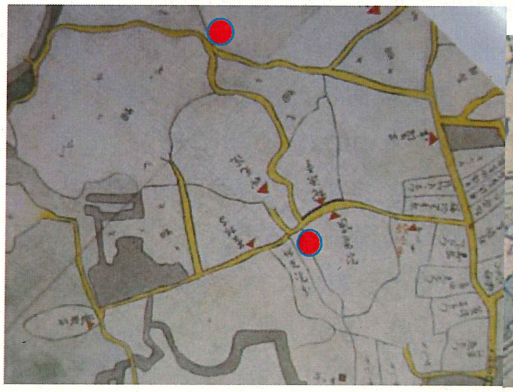


図３　江戸時代の城絵図。赤丸から赤丸まで。

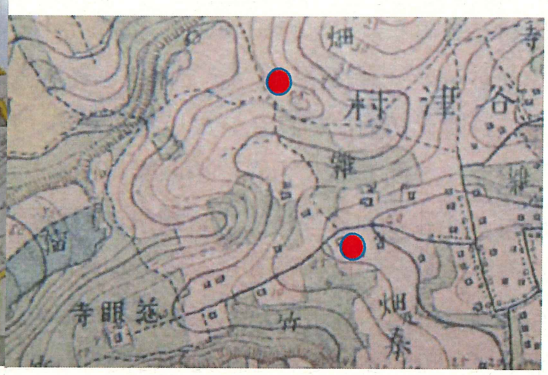


図４　明治前期の測量図

高さ一九七、幅一〇一センチ

道路開築之記

足柄村入谷津は小田原停車場を距る数丁
丘陵起伏して空気清■眺望絶佳好■
の居住地なるも交通不便の為め土地の発
展遅々たるを慨し茲に有志者相謀り新に
道路を開築す長百五十間幅十二尺自動車
の運転も自在なるを得たり後人之に倣
ふて道路を延長するあらは小田原近郊の
発展期して待つへく豈独り入谷津の便
益のみならんや若夫れ土地の発展を阻
害する建築物の為に此道路を利用せら
るゝ如きことあれは已むなく道路を閉塞
する事なきを保せす依て特に之を附記す

道路開築発起工費負担者
濱　半平
馬場英一郎
賛成土地提供者
中村惣太郎
辻　直太郎
佐久間惣次郎
志村林太郎
鈴木銀次郎
桃源寺住職
加藤春芳
浄永寺住職
古宮恵祥
渡邉新太郎

＞大正十一年壬戌九月竣功
面　工事監督測量者
鶴村事　齋藤謹兄
裏　工事請負者
＜　杉山寛次郎

注記
空気清澄眺望絶佳好適（小田原の金石文三）
辻真太郎（小田原の金石文三）は誤り

表紙写真：浄永寺の日蓮名号塔

「石造物調査会会報 1　平成 29 年度
小田原の石造物　城山地区 1」

発行年：平成 30 年 3 月 24 日
編集：石造物調査会
発行：小田原市郷土文化館
〒250-0014　神奈川県小田原市城内 7-8